

2025.8.8

Q: 新規契約件数がアクサダイレクトからの移管を除いても好調な理由として、市場の需要が強いのか、それとも独自の取組みによるものなのか、どちらによるものなのかを伺いたい。

A: 需要に大きな変化はない。インターネット経由や大手保険会社との提携チャネルの契約件数が着実に増加していることによるものである。

Q: 「JARAVIS どうぶつ医療センター Tokyo」の開業が下期に控える中で、利益進捗のペースがやや鈍い印象を受けるが、第 1 四半期の前倒し投資なども踏まえ、当初 10 億円としていた「JARAVIS どうぶつ医療センター Tokyo」のコスト見通しに変更はあるのかを伺いたい。

A: 「JARAVIS どうぶつ医療センター Tokyo」に係る費用について、開業前に先行して発生しているものもあるが、当初想定していたものから増加しておらず、進捗も計画通り進捗している。また、第 1 四半期の利益水準についても計画の範囲内で進捗している。

Q: 損害率の上昇は一定程度想定範囲内とのことであるが、将来的な保険料の値上げについて検討されているか伺いたい。

A: 保険料の値上げについては常に検討の範囲に含まれている。足元の損害率は通期計画(61.1%)に沿った範囲内で推移しており、昨年(60.6%)からの上昇は想定の 0.5 ポイントを見込んでいる。第 1 四半期は毎年やや高い損害率となる傾向があることもあり、現時点で拙速に値上げを行う状況とは考えていない。

Q: 2026 年 3 月から ESR(経済価値ベースのソルベンシー比率)の適用が予定されているところ、余剰資本がどの程度出ると見込んでいるか。また、余剰資本を用いた自己株式取得の追加枠設定等について、現時点の考え方を伺いたい。

A: ESR 適用後の余剰資本について、現時点で明確な金額は示せないものの、一定程度の余剰が出る見込み。余剰資本をどの程度自己株取得に充てるかといった具体的な水準や方針については、来年度に示すこととなる。ただし、余剰が生じた場合、可能な限り自己株式の取得や配当で株主還元を行いたいと考えている。